

## 第13回神奈川支部学術集会

学術集会会長：社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス  
海老名総合病院病院長 内山 喜一郎



会場風景

2014年3月8日(土)、海老名市文化会館(海老名市)にて「考えよう、組織のマネジメントと医療のマネジメント」をテーマに「日本医療マネジメント学会第13回神奈川支部学術集会」を開催いたしました。

県内・県外各地から約360名の参加があり、ランチョンセミナー、一般演題(口演)64演題、一般演題(ポスター)12演題、クリティカルパス発表1演題では、幅広い領域の発表や討議が行われました。

パネルディスカッションでは「本音で解〜く(トーク)『チーム医療の課題と対策』」をテーマに4名のパネリストの皆様、それぞれのチームの特徴や課題を本音で討議いただきました。

特別講演では、医療界でも注目されているコーチングの先駆けである株式会社コーチ・エィの伊藤 守代表取締役をお迎えし「組織マネジメントとリーダーシップ」について御講演を賜りました。

医療マネジメントのみならず組織運営にお役に立つ有意義な討議の場を提供できたことと思います。

今回の学術集会運営にあたり、ご協力をいただいた関係各位の皆様には心より感謝を申し上げ、開催の報告と致します。

## 第16回熊本支部学術集会

学術集会会長：健康保険熊本総合病院病院長 島田信也



会場風景

熊本支部学術集会は、2014年3月8日(土)にセレクトロイヤル八代ホテルならびに熊本総合病院を会場として、429名という多くの参加者を得て開催させて頂きました。

今回のメインテーマは、2025年問題として懸念されている日本の超高齢化社会に伴って今世紀は正に「地域包括ケアの時代」であることから、「ひとりひとりを大事にする地域包括ケアシステム」といたしました。そして、シンポジウムは「地域包括ケアシステムの現状と課題」について、4分野の専門家に発表を頂き、実りある討論が展開され

ました。また、一般演題では、「クリティカルパス・業務改善」「包括支援・医療連携」「チーム医療」「医療安全」のセッションにて発表頂き、熱心な意見交換が行われました。さらに、特別講演として、社会保険病院・厚生年金病院・船員保険病院の57病院が一緒になって2014年4月から「独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)」としてスタートする新機構の使命の1つが「地域包括ケアの推進」であることから、JCHOの尾身 茂理事長にご講演を賜り、最後に「地域包括ケアと街創り」と題して会長講演をさせて頂きました。そして今回は、学術集会後に熊本総合病院14階にて全員懇親会も開催し、ご参加の皆さんに八代の展望と味をお楽しみ頂き、熊本支部の懇親がさらに深まりました。

最後になりましたが、今回の学術集会開催にあたりご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。

## 第3回埼玉支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構東埼玉病院院長 川井 充



会場風景

2014年3月16日(日)、埼玉県県民健康センターにおいて、「埼玉県の在宅医療を考える」をメインテーマとして、第3回埼玉支部学術集会を開催しました。

216名のご参加をいただき、基調講演1題、特別講演1題、シンポジウムとランチョンセミナーが行われました。

最初に、学術集会会長の国立病院機構東埼玉病院の川井 充院長より、基調講演「難病医療から在宅医療へー国立病院機構東埼玉病院の取組ー」が行われ、難病療養在宅医療から高齢者在宅医療への道筋、両者の間で共通する点と相違する点、2013年に受託した在宅医療連携拠点事業の概要、地域の今後の課題などが述べられました。

特別講演では、東京大学高齢社会総合研究機構の辻 哲夫特任教授より、「超高齢社会のまちづくりと在宅医療ー柏プロジェクトを通してー」と題し、今後の日本の高齢化の特徴、医療介護政策の方向、在宅医療の構造と課題、及び柏プロジェクトの取り組みについてお話をいただきました。

シンポジウムでは、「在宅医療と多職種連携」と題して、9名のシンポジストとして、「行政(県)の立場から」埼玉県保健医療部 小野寺医療整備課長、「在宅医療連携拠点の立場から」、国立病院機構東埼玉病院 今永内科医長、「急性期病院の立場から」、国立病院機構埼玉病院 原副院長、